

CUBA'S NEW GENERATION

# キューバの 変化と未来は 彼らの手に

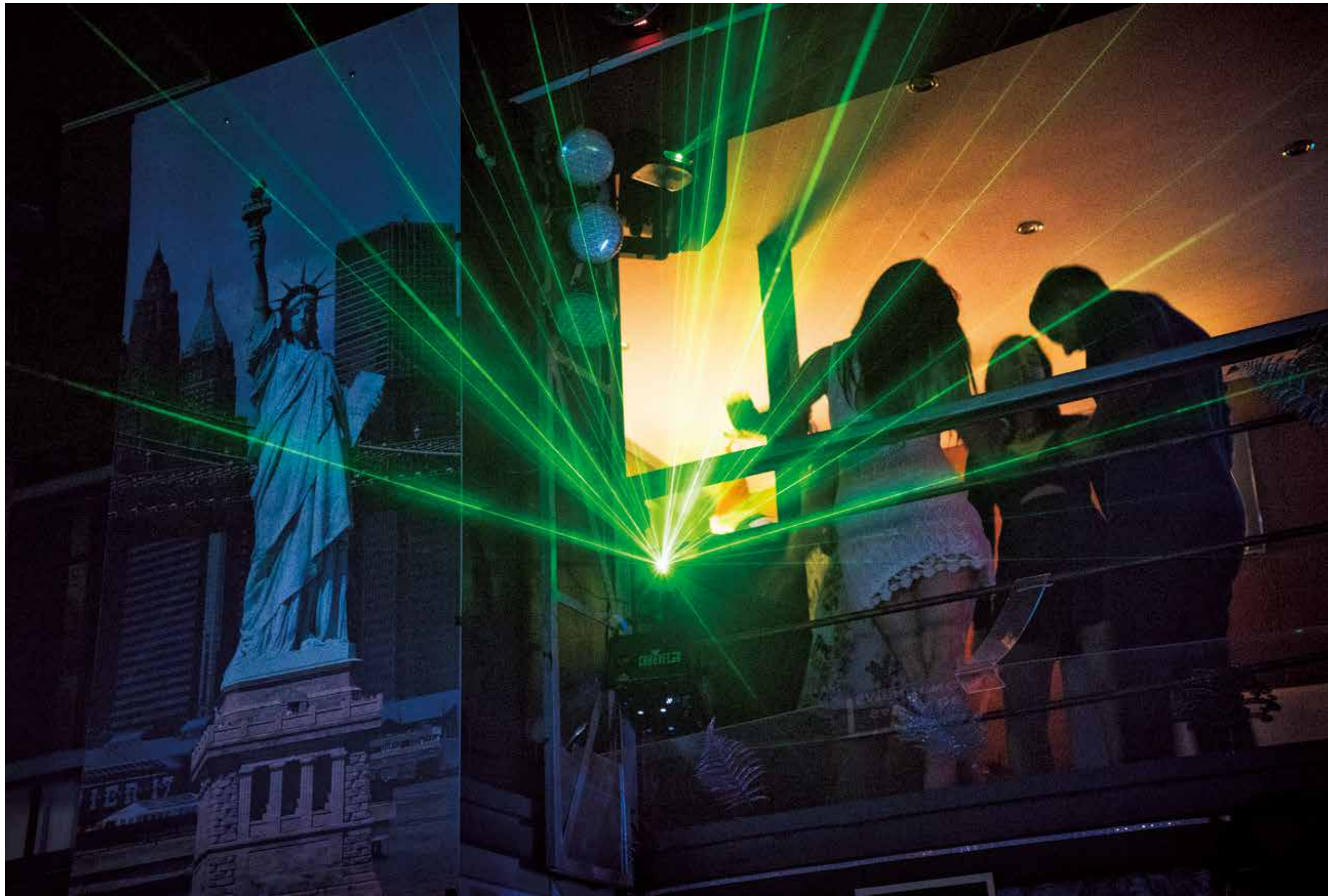
PHOTOGRAPHS BY **GIORGIO PALMERA**

キューバとアメリカの関係は歴史的転機を迎えた。昨年末に国交正常化に向けた動きが始まり、5月末には米政府がキューバのテロ支援国家指定を解除。そして今月1日、54年ぶりの国交回復と大使館再開で合意した。関係正常化はキューバ国民、中でも若者世代に大きな影響を及ぼす。キューバ政府はここ数年、車の売買自由化など市場経済の導入に向けた一連の改革を

推進。民間のビジネスを認めるようにもなり、50万人以上の自営業者が誕生した。キューバの人々の生活からは少しずつ、全面的な国家管理体制の色が薄まりつつある。なかでも重要なのは精神面の変化だろう。それを象徴する1つが、数々の民間芸術センターの出現だ。特に有名なのはキューバ芸術ファクトリー（FAC）で、若手を中心にさまざまな分野の

アーティストたちが自由に表現できる場になっている。首都ハバナでは、新興の起業家層が自らの富を惜しげもなく見せびらかし、夜遊びを楽しむ消費文化に毒されずに子供を育てたい、とキューバに帰って来たヤネリス・ナボレスは少し残念そうだ。「キューバの魔法の一部は失われてしまった。子供たちには気の毒だが、この変化は止められない」

N



ビジネスの自由度アップを象徴するのが、新たに誕生している民営のディスコだ(以下、写真はすべてハバナ)

## Picture Power



1年前に開いた理髪店で客の髪を切るウィリアム・ラザロ・ブエナビア(上)、  
 国営の古い理髪店にはカストロ前  
 国家評議会議長の写真が



# Picture Power



国営の配給所で、政府は配給制度の  
 段階的廃止を打ち出している(上)、若  
 者たちの姿は欧米と変わらない





(上から時計周りに)映画やニュースなどあらゆるダウンロード情報を2ドルで販売する「バケテ」の創作者の1人エルトン・ロドリゲス、ガブリエルは1年前に米マイアミからキューバに帰ってきた、メリア・ゴドイ・ホテルはキューバ人が時間制でインターネットを使える数少ない場所、海に面した有名なマレコン通りで、FACにいたピアニストのペロニカ、ハバナの中心街を歩く若者たち

撮影:ジョルジョ・バルメラ  
1968年、イタリアのローマ生まれで、現在も在住。EUやNGOの支援を受け中東、アフリカ、中米などを取材している。2002年からパレスチナ、ウガンダ、アルジェリアなどの厳しい環境で暮らす若者たちに、取材・撮影の手法を指導する教育組織の設立、運営に携わる

Photographs by Giorgio Palmera-Echo

# Picture Power

